

ホシミスジは、1960年頃、私の郷里高知市では例年6月10日前後に、郊外の逢坂峠という小高い山肌草地まで約4km自転車を踏んでやっと出会えるたいへん珍しいチョウでした。1990年代後半だったと思いますが、このホシミスジの幼虫が西畑自宅庭のシモツケにいるのを見つけたときは、一体どこから？と不思議でなりませんでした。すっかりそのことを忘れていた2004年5月、たまたま斎場南側の公園近くを自転車で通りかかった際、まぎれもないホシミスジがひらひらと路面で遊んでいるのに出くわし、あたりを良く見ると、ありました。斎場をとりまく高台となった部分の垣根がすべてホシミスジの食草となるユキヤナギだったのです。このユキヤナギが垣根植物としてどこからか運ばれてきて、そのときホシミスジの卵、幼虫、蛹のいずれかが複数ついていたのでしょう。自転車をゆっくり踏みながら斎場側に気をつけると、他にも何頭か飛んでいるのがみえ、明らかにここで継続発生している様子。場所が場所だけに戸惑いながらも斎場事務所へと立ち入り、観察許可を得て場内のユキヤナギを調べると、若令幼虫も見つかり、目の前で産卵する♀も撮影できました。V字に羽を開いた写真でわかるように、後翅裏付け根あたりにある



星状の黒い斑点がホシミスジという名前の由来です。本州、四国、九州に分布しますが、東北地方では稀となります。

ホシミスジの仲間に幼虫があちこちでマントを形成するクズの葉っぱを食べるコミスジという一回り小さなチョウがいて、どちらかといえばコミスジの方がはるかにポピュラーな存在なのに、近隣ではホシミスジだけが目につきます。普通にみられるはずのコミスジは松波町や西畑地区でなぜかみることがありません。いずれもツンと羽ばたいはグライダー様にスイーと流れるしぐさで軽やかに滑空し、その飛び方から遠くにいてもミスジチョウの仲間だと分かります。

西畑から松波町へ越えてきて4年経過した2007年夏に初めて玄関前にシモツケの鉢植えをおいて様子を見ていたら、来てくれました。2008年6月19日、大きな♀が1個だけ卵を産んでくれ、産卵後その名前のミスジ（三筋）とホシ模様をしっかりと見てくださいよ、といわんばかりに隣のゼラニウムの葉っぱ上でゆっくりとV字体勢を交えた開閉を繰り返し見せてくれてからどこかへといなくなりました。その後、卵は無事チョウにまで育ち元気良く飛びたちました。3班裏の花畑に植栽されたユキヤナギにも幼虫が見つかるなど、斎場を発生原点としてじわじわと勢力を広げているのがうれしくなります。

西畑から松波町へ越えてきて4年経過した2007年夏に初めて玄関前にシモツケの鉢植えをおいて様子を見ていたら、来てくれました。2008年6月19日、大きな♀が1個だけ卵を産んでくれ、



産卵後その名前のミスジ（三筋）とホシ模様をしっかりと見てくださいよ、といわんばかりに隣のゼラニウムの葉っぱ上でゆっくりとV字体勢を交えた開閉を繰り返し見せてくれてからどこかへといなくなりました。その後、卵は無事チョウにまで育ち元気良く飛びたちました。3班裏の花畑に植栽されたユキヤナギにも幼虫が見つかるなど、斎場を発生原点としてじわじわと勢力を広げているのがうれしくなります。